エンピツなめなめ、お年寄りが 文集「いまは昔」を発行

講座〝中央ことぶき大学〟で

昨年十一月二十六日から今年三月二十五日までの毎週金曜日に行われた「中央ことぶき大学」では、選択として、クラブ学習「聞き書き集教室」がありました。いう激動の三代を生き続けてきた人達。

その彼らが、文章を書いてみたのは、全くはじめてといいながら、エンピツをなめなめ、「生活史」に燃え、自分たちの昔のことを、思い思いに書きつづり、今、「いまは昔、思い出の記」という文集を完成させました。

最高齢者の**尾崎留次郎**さん（八十二歳、水島町）ほか十五人が参加しての学習でした。

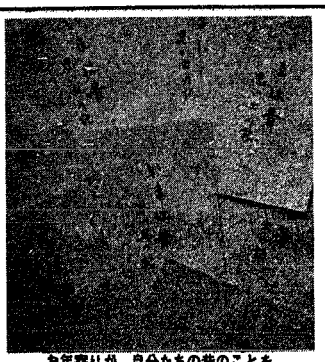
「娑婆（しゃば）は三代の聖恩に浴し乞い」〝農村風景の今昔〟などの「町と村」、〝夜ばい〟〝明治娘の気質〟〝嫁歳、長者町〟は、「今は、どり（大正初期）」〝村祭〟〝お正月の料理〟〝昔の品物の値段〟などの「くらしの値段」、そのほか、「しごと」、「沼垂もん」、「人生」など、六十六編が収められています。

このグループ学習に参加した**小原正二**さん（六十三歳）は、「今は、多いのではないか。いいことをきいたり、先生を囲んで、気楽に話しができたり、ひまのある人は、有意義に過ごせるのではないか」と、語っていました。

なお、この「いまは昔、思い出の記」を、市中央公民館事務局で、実費頒布しています。定価は、二百円です。

あなたも、一度、読んでみませんか。

なお、本紙二頁で紹介しているとおり、今年の「中央ことぶき大学」が、五月二十日から始まります。詳しいことは二頁をご覧ください。



お年寄りが、自分たちの昔のことを書きつづった「いまは昔」

早起き野球大会 いよいよ15日に開幕

開会式に応援にきませんか

「第十二回新潟市勤労者早起き野球大会」の開幕があと一週間後と迫りました。

五月十五日（日）、鳥屋野球場で、開会式と第一戦が行われます。

今年は、新設した「壮年の部」（三十五歳以上）の期に、七月一杯までの約二十九チームを含めて、参加七百四十二チームという、大きな大会となりました。

昨年は六百二十二チームでしたので、今年は、百二十チームも増えたことになります。

当日は、ファンファーレの高らかな響きとともに、音楽隊の演奏で、昨年優勝した職域の部の新潟電話局を先頭に、色とりどりのユニホームで、各チームで作ったプラカードを持って、入場行進。

大会宣言や、川上市長の激励のあいさつとすすんで、壮年の部の〝豆九オールド〟の村山俊主将の宣誓で開会式を終了します。

川上市長による始球式のあと、壮年の部〝山潟オールドスターズ〟対〝中体連〟で、熱戦の火ぶたが切って落とされます。

胸わき、血おどる「早起き野球大会」。この一戦を

優秀農家を訪ねて ④

トマト栽培を中心に

佐藤博雄（29歳、新崎）

施設園芸

経営で表彰された佐藤博雄さん。二十九歳。

ハウス栽培を条件に、定時制卒業後、畑と水田を耕作していたお父さんの後を継ぎました。

卒業の年（昭和四十四年）、後継者育成資金を借りて、ビニールハウスを一棟建設。以後、年々増やし、現在、育苗用を含めて、十二棟を所有しています。

面積にして三十アール、春作にトマト二十五アール、キュウリ五アール、秋作にトマト三十アールを作付けし、二回転しています。

これでわかるように、ハウスのほとんどがトマト栽培で、年間、一万箱以上を、農協に出荷しています。

佐藤さんは、輪作障害を防ぐため、堆肥施用による土づくりをするとともに、トマトの接木については、先駆者でもあります。

梅雨期、気温が高く、接木のとき、苗がむれたり、とろけたりするため、かるように、ハウスのほその熱さをいかにしてセーブし、確率よくするかに苦心があります。

佐藤さんの場合、初め、寒冷遮（かやのようなもの）を使い、厚いもの、薄いもの、いろいろ変えてみたりしました。

さらに、ある日、植木で有名な中蒲・小須戸町を通ったとき、植木屋が松の接木などに使っていた遮光ネットにヒントを得、以来、それを使って接木に成功しています。

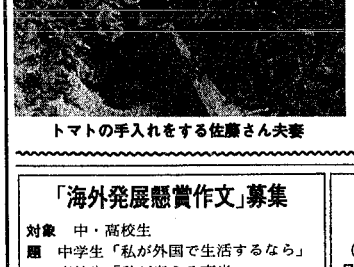
今では、村の者がよく聞きにきたりするとか。

経営の担い手は、佐藤さん夫妻とお父さんの三人。

接木のころともなると、一万本も接ぐため、めっぽう忙しく、昼食時、食堂から弁物を取って、ハウスで食べるほど。

農業粗収入は、約九百八十万円で、基幹である施設園芸のトマト五百二十五万円、キュウリ七十四万円で、六〇・九％を占めています。

佐藤さんは、将来の目標として、「稲作・畑作は、経費の節減と省力化のため共同化を図り、施設の有効利用と労働配分を計画的に進めるため、年間を通じたハウス栽培にとりくむ」とのことです。



トマトの手入れをする佐藤さん夫妻

稚ザケ百万匹を放流

信濃川下流で初めて

二百〝時代に入り、「内水面や沿岸漁業に力を入れたい」ということで、信濃川漁業協同組合（斎藤金二郎組合長、組合員三百八十人）で、四月二十五日、信濃川で、初めての、大がかりなサケの稚魚の放流を行いました。

放流場所は、鳥潟の信濃川右岸。同組合が、昨年秋捕えた親ザケから採卵ふ化させた稚ザケ（体長五～六㌢）約七十万匹と、上流の五十嵐漁協（三条方面）の稚魚三十万匹、合わせて約百万匹が、小雨の信濃川へ、放流されました。

稚ザケの放流は、市とし

「大きくなって戻って来いヨ」と、稚ザケを放流

ては初めて。そのため、補助金を出すなどして、強力にバックアップし、市長も当日、川べりに姿をみせました。

サケの回帰率は、北海道の二・二％に比べ、一％と低いですが、百匹に一匹は帰ってくる計算になります。帰ってくるのは四年後、うち、捕るのは、沿岸で六五％、川で三五％とか。

斎藤組合長は、「昨年は千七百匹くらいだったが、将来は、一万匹くらい捕れるようにしたい。今後も、年々、放流する数を増やしていきたい」と語っています。

「海外発展懸賞作文」募集

対象 中・高校生

題 中学生「私が外国で生活するなら」
高校生「私が考える南米」

原稿 400字づめ原稿用紙に中学生は5枚以内、高校生は6枚以内で自己の意見を具体的に述べたもの。（住所、氏名、年齢、性別、学校名、学年を明記。）

締め切り 5月15日の消印まで有効

送り先 国際協力事業団新潟県事務所（東大通1-3-1、帝石ビル内☎47—1918）

褒彰 特選各2名（夏休みに中学生2名はアメリカ、高校生2名はブラジルへ研修旅行に派遣）

二級四級小型船舶操縦士 指定講習会

（学科）

日時 四級5月20日～25日、二級6月1日～14日、午後6時～9時

場所 新潟海技専門学院、五十嵐1の町

（実技）

日時 四級5月21日、二級6月2日 午前9時より

受講資格 年齢15歳9か月以上（四級）17歳9か月以上（二級）及び所定の身体検査合格標準に達していること。

受講料 四級79,000円二級162,000円ほか

申し込み はがきまたは電話で日本船舶職員養成協会新潟支部（五十嵐一の町、新潟海技専門学院内☎69—2944）へ

木工見本市（即売）

日時 5月17日、18日の2日間 午前9時～午後6時

会場 市体育館

展示品 市内で生産される家具、漆器、仏壇、竹籐品など約2,500点、その他協賛出品もあります。

銃砲刀剣類登録審査会

日時 5月16日午前10時～午後3時

会場 新潟県下越婦人会館（白山浦一）

持参品 登録を受けようとする銃砲刀剣類、所轄警察署から交付を受けた銃砲刀剣類発見届出受理証、印鑑、登録手数料1件につき500円（新潟県収入証紙で納入）

手話を学ぶ会

初心者から手話通訳を目指す人までどなたでも歓迎

期日 5月18日より毎週水曜日

時間 午後1時半～午後3時半

場所 県社会福祉会館2階（東中通1）ボランテイアコーナー

経費 月額200円他テキスト代実費

主催 手話サークル たけの子会

申し込み 市ボランテイアビューロー（☎29—5518）